

➤ 14日 金曜

ヨシュア

3:1 ヨシュアは翌朝早く起き、すべてのイスラエルの子らとともにシティムを旅立ち、ヨルダン川のところまで来て、それを渡る前にそこに泊まった。

3:2 三日後、つかさたちは宿営の中を巡り、

3:3 民に命じた。「あなたがたの神、【主】の契約の箱を見、さらにレビ人の祭司たちがそれを担いでいるのを見たら、自分のいる場所を出発して、その後を進みなさい。

3:4 あなたがたが行くべき道を知るためである。あなたがたは今まで、この道を通ったことがないからだ。ただし、あなたがたと箱の間に二千キュビトほどの距離をおけ。箱に近づいてはならない。」

3:5 ヨシュアは民に言った。「あなたがたは自らを聖別しなさい。明日、【主】があなたがたのただ中で不思議を行われるから。」

3:6 ヨシュアは祭司たちに「契約の箱を担ぎ、民の先頭に立って渡りなさい」と命じた。そこで彼らは契約の箱を担ぎ、民の先頭に立って進んだ。

3:7 【主】はヨシュアに告げられた。「今日から全イスラエルの目の前で、わたしはあなたを大いなる者とする。わたしがモーセとともにいたように、あなたとともにいることを彼らが知るためである。

3:8 あなたは契約の箱を担ぐ祭司たちに『ヨルダン川の水際に来たら、ヨルダン川の中に立ち続けよ』と命じよ。」

奴隷状態から救われたイスラエルが、約束の地に入ろうとしています。そのためにはヨルダン川を渡らなければならない、そのためには信仰の決断が必要でした。



そこには救いの主がともにおられるという約束があり、彼らの守りはまさにその主であったのです。それゆえ「契約の箱をかつぎ、民の先頭に立って」行くことが必要だったのです。

私たちクリスチャンも死と奴隷の状態から救われた者で、約束を地を目指しているものです。それは終末的には栄化であり、地上においては聖化です。すなわち御霊の実を結ぶ人格となることです。

それには、このヨルダン川の出来事と同じように、主の契約すなわち救いの約束が何よりも先立つのです。その確証があるなら私たちは、「今まで、この道を通ったことがない」というような未知の領域でも、聖霊の実を結ぶことができるのです。

救われていること、すなわち主の契約があることを確信して、また主の臨在があることで安心して、未知の領域に挑戦していきましょう。その際の勝利は、どんな中にあっても聖なる実を結ぶ人格となることです。それが勝利であり約束の地を、この地上で手に入れるということです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

